

恵みと真理のニュース



2013年9月の二次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養5洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



【証】 私の力になる主、私が主を愛します。

私がここポイルに引越す前カチオンに住む時でした。私に福音を伝える恵みと真理教会の区域長達をあちこち避け他のところに引越したのにもそこでも上下隣の家に区域長が住んでいました。それで、もう最初からカトリックだと嘘をつきました。区域長達は休まずに私に福音を伝えました。特に恵みと真理教会の区域長達が所々に私に福音を伝えて他の教会はないと思うくらいでした。

ある日区域長一人を道で偶然に出会って「今週の区域の礼拝一緒に捧げましょう。と強く勧められてめんどくさくてこの場所から早く逃げたくて私も知らず「はい」と答えました。何日後悩んでいよいよ約束をしたから守るためその週の金曜日に区域礼拝に行きたくなかったですが区域長の家に向かいました。さて礼拝には参加しましたがイエス様も知らなくてイエス様に対する信仰がなかった時だから心が不便でした。その次の週は他の姉妹の家で区域礼拝を捧げるからその時も参加してくださいと言って仕方なく行きましたが多くの人が大きく賛美を捧げる声を聞き驚いて階段を上る足を家に帰ると思いました。

その時区域長がドアを開け早く出て私と手くびを掴んで引かれてしまうのがなく家に入りました。後で知りまがが地域の全ての区域長と聖徒がみんな集まって団合礼拝を捧げる日でした。

礼拝の最後の順序で悔い改めと聖霊充滿をため祈る時間でした。私は悔い改めることがわからなかったのが今まで私が誤ったことを考えながら単純に「神様、私を許してください」と心で祈りました。ところがそのように祈る瞬間、全身のゆれを感じ涙が出ました。私も知らずに「神様、天の父よ 感謝します。という言葉が出ました。

どんなに涙が流したがその瞬間は恥ずかしくなかったです。礼拝が終わっておかしく心が平安でなんとなく喜びが溢れました。次の日曜日に教会の礼拝に必ず参加して決信しようと私から区域長に約束しました。イエス様を救い主として受け入れ全てが変わり始めました。

喜びと感謝が溢れて何をしても楽しくて幸せでした。初めて当会長の牧師の説教を聞いた時御言葉の神霊な

意味は悟らなかつたですがただ慈しんで愛が溢れる声の賛美について歌うだけでも楽しくて心が平安になりました。

牧師が説教してくださる御言葉がどンドン神様の愛の声として聞こえ礼拝が待ち望むようになり説教の御言葉が耳に入り「アーメン」が口から出ました。神様の天地創造と生きていらっしゃること、イエスキリストの救いの恵みと真理、教会に関して疑問を持てれば礼拝の時に御言葉を通してその疑問が解かれてくださって私の信仰が成長するように導いてくださいました。しかし、10年の歳月が過ぎ主に対する愛と熱かった私の信仰がどンドンさめて形式的な礼拝を捧げるようになりました。心が切ないが御言葉の黙想と祈らなく体と心は世の中に迫り伝導を言い訳で不信者達と交わり世のことで一緒に喜び区域長の祈り会と平日礼拝も休む日も多くなりました。

「こうしてはいけないのに」心を改めて悔い改めないといけなくて心では思っていたが決断を立てない時に世の中で一番たまたましいが旦那が腎臓癌の判定を受けました。その日から世の趣味を辞めて神様の前で膝をまずきました。涙を流しながら祈りました。「旦那が亡くなると私はどうやって生きるのか？恐ろしくて怖くて朝から寝るまで休まずに神様に悔い改め慈しみと哀れみを求めながら祈りました。

「主は憐れみ深く、恵みに富み／忍耐強く、慈しみは大きい。永久に責めることはなく／とこしえに怒り続けられることはない。(詩篇 103 : 8, 9)心の深いところから真実に悔い改める祈りをして許しの確信を出して信仰の胆力と勇気が出て神様に感謝を捧げ力を得て神様を仰ぎ望みました。

すると「恐れることはない、わたしはあなたと共にいる神。たじろぐな、わたしはあなたの神。勢いを与えてあなたを助け／わたしの救いの右の手であなたを支える。(イザヤ書 41 : 10) ヤコブよ、あなたを創造された主は／イスラエルよ、あなたを造られた主は／今、こう言われる。恐れるな、わたしはあなたを贖う。あなたはわたしのもの。わたしはあなたの名を呼ぶ。水の中を通るときも、わたしはあなたと共にいる。大河の中を通っても、あなたは押し流されぬ。火の中を歩いても、焼かれず／炎はあなたに燃えつかない。わたしは主、あなたの神／イスラエルの聖な

る神、あなたの救い主。わたしはエジプトをあなたの身代金とし／クシュとセバをあなたの代償とする。(イザヤ書 43 : 1~3) 御言葉で慰め旦那に霊肉共に救いの恵みを与えて下さり信仰と希望をくださいました。

神様は旦那の病気を通して私の信仰を完全に回復させました。愛と権能の手を出して私を強くしてくださいました。そしてついに旦那はイエス様を受け入れました。神様は絶対に開かない旦那の心が開き両手をあげ主の前に出るようにさせました。旦那は一つの腎臓を切除する手術が良くできて健康が回復されました。主日ごとにゴルフをしに行った旦那は朝8時の礼拝に参加して執事になり私よりもっと御言葉の恵みを受しながら朝夜ことに牧師のメッセージを繰返して聞いています。

旦那が私の信仰生活を反対する時には全ての礼拝を捧げるように切に神様に祈りましたが神様の恵みと摂理で答えられてそんな環境になったときにはむしろ世の中の生活を楽しんでました。神様はこんな私を許してください人生の真実な楽しみと幸福を探し以前よりも味わうようにさせました。

神様は息子にも大きい祝福を与えてくださいました。大学の進学、軍隊の事、交換学生で研修など時時道を開いてくださって導いてくださいました。世の中でどんな背景を持ってなく自慢することもないが最近難しい就職難ですが卒業前に就職できるような導きました。息子は私と主日3部の礼拝の聖歌隊で奉仕しています。全てが協力して役となり、信仰で求めることは一番良いことで答えてくださって私を導く清く生きるように導いてくださった神様の恵みと愛に感謝を捧げました。今まで生きる間神様から受けた恵みと愛をどう言葉と字で表現できるでしょうか？ただ感謝し私の心と思いを力をつくして主だけを愛し世の中ではおろかに見えても主の事に一番知恵で誠実な者になることを決心しました。天国に召される日まで相変わらず私の家族が受けたダラントで頑張って主と主の体である教会を愛し仕え献身します。主の前に召されるとき主から「あなたが世の中でよく生きた。」褒められる事を願います。私の力になる主よ。私が主を愛します。アーメン



【信仰コラム】 開(ひら)いたドア、閉(し)まったドア

見よ、わたしは、あなたの前に、だれも閉じることのできない門を開いておいた。なぜなら、あなたには少しの力がなかったにもかかわらず、わたしの言葉を守り、わたしの名を否まなかったからである。(ヨハネの黙示録 3:8)

聖書(せいしょ)にはそれぞれ多様(たよう)な内容(ないよう)と意味(いみ)を持(も)っている様々(さまざま)な種類(しゅるい)のドア(か)ん(か)ん(か)ん)して記録(きろく)としておきました。その門(もん)は救援(きゆうえん)、福音(ふくいん)伝道(でんどう)、祈(いのり)、回答(かいとう)、豊饒(ほうじょう)、迎接(げいせつ)、天国(てんごく)と関係(かんけい)があります。そのドア(か)ん(か)ん)された霊的(れいてき)なメッセージ(せ)を見(み)てみます。

第(だい)一(いち)、救(すく)いの入(い)り口(ぐち)があります。(ヨハネによる福音書 10:9) イエスは唯一(ゆいいつ)の'救援(きゆうえん)のドア'です。門(もん)の前(まえ)でためらったり、のぞいているのは救援(きゆうえん)を得(え)ません。詳(くわ)しく観察(かんさつ)して研究(けんきゅう)し、そのドア(か)ん(か)ん)について大要(たいへん)な論文(ろんぶん)を書(か)くと言(い)っても、それでは救援(きゆうえん)を得(え)ません。救援(きゆうえん)の門(もん)は我執(がしゅう)と貪(たん)心(しん)とプライド(プライド)がたつぷりの人間(にんげん)には入(はい)りきれない狭(せま)き門(もん)です。しかし、キリストの前(まえ)にきて柔和(にやうわ)で謙遜(けんそん)な気持(きもち)で悔悟(かいご)した者(もの)に入(はい)るのが簡単(かんたん)な門(もん)です。

第(だい)二(に)に、伝道(でんどう)への入(い)り口(ぐち)があります。(コロサイの信徒への手紙 4:3) 福音(ふくいん)を伝(つた)えようとしても伝道(でんどう)への門(もん)が閉(し)まっているはできません。伝道(でんどう)のドア(か)ん(か)ん)かれて福音(ふくいん)を自由(じゆう)に伝(つた)えられるようお祈(いのり)しなければなりません。お祈(いのり)回答(かいとう)を妨害(ぼうがい)する霊(れい)界(かい)の背後(はいご)勢力(せいりょく)サタンは伝道(でんどう)のドア(か)ん(か)ん)かないよう全力(ぜんりょく)を尽(つく)してあります。。だから、しつこくお祈(いのり)しなければなりません。

第(だい)三(さん)に、祈(いのり)の回答(かいとう)の入(い)り口(ぐち)があります。(マタイによる福音

書 7:7, 8)のドア(か)ん(か)ん)を叩(たた)くといは神(か)み)様(さま)が教(おし)えてくれた方法(ほうほう)通(とお)り(に)求め(もと)め、意味(いみ)があります。お祈(いのり)は、イエスキリストの名(な)で父(ちち)なる神(かみ)に求(もと)めなければなりません。聖書(せいしょ)にある約束(やくそく)のお話(はなし)に基(もと)づいて求(もと)めなければなりません。信頼(しんらい)と度胸(どきょう)のよさと忍耐(にんたい)で求(もと)めなければなりません。お祈(いのり)でドア(か)ん(か)ん)たたくのは私(わたし)たちがする仕事(しごと)で、回答(かいとう)のドア(か)ん(か)ん)を開(ひら)くのは、神(かみ)様(さま)のすることです。

第(だい)四(よん)に、積(つ)む場所(ばしょ)がないように腫(は)れたために開(ひら)くようになる空(そら)の門(もん)があります。(マラキ書 3:10) 聖書(せいしょ)には神(かみ)を試験(しけん)しないとおっしゃいましたが、ただ十(じゅう)一(いち)條(じょう)と関連(かんれん)して記録(きろく)されたお話(はなし)にだけ「私(わたし)を試(ため)して私(わたし)が空(そら)の門(もん)を開(ひら)いてあなたに福(ふく)を積(つ)む場所(ばしょ)がないように腫(は)れないか考(かん)がえてほしい。」しました。積(つ)む場所(ばしょ)がないように腫(は)れぬことのために開(ひら)かれない空(そら)の門(もん)は神(かみ)様(さま)にドリームを通(つう)じて開(ひら)かれます。

五(いつ)つ、心(こころ)の扉(とびら)があります。(ヨハネの黙示録 3:20) 心(こころ)の扉(とびら)は外(そと)では開(ひら)くことができず、中(なか)のみ開(ひら)く門(もん)です。神(かみ)様(さま)も私(わたし)たちが心(こころ)の扉(とびら)をこじあけて入(はい)って来(こ)ないです。ですので、私(わたし)たちが心(こころ)の扉(とびら)を開(あ)けなければなりません。また、門(もん)を通過(つうか)して家(いえ)に入(はい)ると多くの部屋(へや)があり、また、ドア(か)ん(か)ん)が、われわれの心(こころ)も同(おな)じです。心(こころ)の扉(とびら)を開(あ)けて、イエス様(さま)を迎(むか)えたいなら部屋(へや)を開(ひら)き鍵(かぎ)の束(たば)を丸(まる)ごと神(かみ)様(さま)に差(さ)し上(あ)げるようにしなければなりません。そうすればすべての仕事(しごと)に神(かみ)様(さま)と、ともに、暮(く)らす幸(しあわ)せを享受(きやうじゆ)することができます。

六(ろく)番(ばん)目(め)、真珠(しんじゆ)の入(い)り口(ぐち)があります。(ヨハネの黙示録 21:10-13, 21) 聖徒(せいと)が永

遠(えいえん)に生(い)きることになる偉大(いだい)な城(しん)新(しん)しいエルサレム(はい)の門(もん)は真珠(しんじゆ)の扉(とびら)でできています。貝(かい)の中(なか)に異物(いぶつ)が入(はい)ると貝(かい)の柔(やわ)らかな肌(はだ)に刺激(しげき)を与(あた)えて、苦痛(くつう)を与(あた)えます。貝(かい)は白(しろ)く固(かた)い物質(ぶつしつ)を出(だ)してその異物(いぶつ)をくろみ始(はじめ)るのだが、それが真珠(しんじゆ)になります。聖徒(せいと)たちは患難(かんなん)時代(じだい)と困窮(こんきゆう)と誘惑(ゆうわく)を信頼(しんらい)と希望(きぼう)と愛(あい)で克服(こくふく)して患難(かんなん)が福(ふく)になって苦難(くなん)が栄光(えいこう)にして生(い)き、天国(てんごく)に入(はい)ることになります。そしてなによりもイエス様(さま)が私(わたし)たちを天国(てんごく)へと導(みちび)くことのために受(う)けた苦難(くなん)は筆舌(ひつぜつ)に全部(ぜんぶ)表現(ひょうげん)できません。神(かみ)がされた苦難(くなん)をよって私(わたし)たちが天国(てんごく)に入(はい)ることができたから天国(てんごく)に入(はい)ることを考(かん)がえながら楽(たの)しく生(い)きよう願(ねが)います。(チヨヨンモク牧師 信仰コラム '青い草場 清い小川' お話中で)

「チヨヨンモク牧師先生の信仰コラム '緑の牧場、清い川' 本の語り中」



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

矢たちを取って地を七回打ってください

“「東向きの窓をあけなさい」と言ったので、それをあけると、エリシャはまた「射なさい」と言った。彼が射ると、エリシャは言った、「主の救の矢、スリヤに対する救の矢。あなたはアベクでスリヤびとを撃ち破り、彼らを滅ぼしつくすであろう。」”(列王紀下 13:17) しました。エホバ神様による驚くべき勝利のメッセージでした。その次のエリシャはヨアス王に“矢たちを取ってください。”しました。王が矢をいくつ握りました。そうすると“地を打ってください。”しました。ここで使った“打ちなさい。”用いる用語は“強くなぐりなさい。”と意味があります。ところで王は“ぱんと、ぱんと、ぱんと”三度打ってやめました。これを見たエリシャ予言者が怒りながら言うのを“王が5、6回打ったら王がアラムを所滅することができたはずですが、しかしこれからは王はアラムを三度だけ打つようになるでしょう。”と言いました。エリシャはヨアス王が視覚、聴覚、触覚をすべて使うようにしながら精選された用語として説明を付け加えて神様の意味を知らせてくれたがヨアス王は悟ることができなかつたです。ヨアス王はエリシャ予言者の言葉を上の空で入ったのです。エリシャはこのようなヨアス王に対して怒りと切なさを禁ずることができなかつたのです。私たちが神様の言葉を上の空で聞けばその言葉の真正な意味を悟ることができません。深い意味が分からないです。そしてその言葉による恩寵を受けられなくなります。

ペテロがユダヤ人たちにその事件をきちんきちんと説明しました。するとユダヤ人たちも言うのを“それでは神様が異邦人にも生命得る悔い改めをくださった。”しながら神様をほめたえました。

三番目は、神様の言葉を聞く時心を低めて謙虚な姿勢に聞かなければなりません。

ヨアス王はエリシャ予言者の指示を受ける時心を完全に低めることができなかつたです。エリシャ予言者が言葉としてだけ言わないで王にいろいろ行動をするように指示するのがありがたく思われなかつたです。それで積極性を見せないで矢を取って“ぱんと、ぱんと、ぱんと”三度打って止めました。これを見たエリシャ予言者が怒りながら言うのを“王が5、6回打ったら王がアラムを所滅することができたはずですが、しかしこれからは王はアラムを三度だけ打つようになるでしょう。”と言いました。彼に指示する人は予言者です。ヨアス王は予言者の指示がすぐ神様の指示であるという事実を考えなかつたのです。高慢の心が入って来れば神様の言葉が耳に入って来ないで言葉を伝える人だけ目に入って来て人の言葉で聞くようになります。それで神様がくださろうとする恩寵を収容することができなくなります。皆さんはいつも心を低めて謙遜に神様の言葉を聞いてください。

昔のイスラエル国には王と祭司と予言者が役目を分担して神様が与えられた任務を遂行しました。多くの民たちを統治する任務は王が行いました。祭司は神様を向けた礼拝を維持保存して神様と人との懸け橋の役目をしました。予言者は神様から言葉を受けて代言して宣布する役目を遂行しました。予言者たちの中には神様の能力を着て奇事と異蹟を行った人々もいたがエリシャ予言者は異蹟を行って多くの人々を助けてあげました。汚染した水をきれいに変化させました。病んだ人を治癒して死んだ子供を生き返えるようにしました。神様の啓示を受けて敵国アラム軍隊の動態を王に報告してあらかじめ防備するので侵攻がいつも失敗するようになりました。夜間に攻め寄せたアラム軍事たちを目覚めた盲人になってイスラエル王の前に導いていく事もあります。このようにエリシャは敵国の侵略を受け止めていつも国を危機で救出したし死亡者を生かすなど奇事と異蹟をたくさん行いました。しかしエリシャも老けることと死を抜けることができなかつたです。

エリシャの病気の消息を聞いてヨアス王が直ちにエリシャを尋ねました。涙を流して国の将来を気づかうヨアス王を見てエリシャはあわれな気がしました。あの時神様がエリシャに予言行為をするようにしました。エリシャが王に“弓と矢を持って来てください。”したら王が弓と矢を持って来ました。“王の手で弓を取ってください。”して王が手で弓を取ったらエリシャが手を王の手の上に乗せて励ましました。エリシャは引き継いで王に“「東向きの窓をあけなさい」と言ったので、それをあけると、エリシャはまた「射なさい」と言った。彼が射ると、エリシャは言った、「主の救の矢、スリヤに対する救の矢。あなたはアベクでスリヤびとを撃ち破り、彼らを滅ぼしつくすであろう。」”(列王紀下 13:17) しました。その次のエリシャは王に矢たちを取りなさいと言いました。王が矢たちを握りました。そして地を打ちなさいと言いました。すると王は三度打って止めました。これを見た先知者は怒って言うのを“王が5、6回打ったら王がアラムを所滅することができたはずですが、しかしこれからは王はアラムを三度だけ打つようになるでしょう。”と言いました。この事件を通じて私たちは神様の言葉を聞く正しい姿勢に対する教訓を得ることができます。

第一は、神様の言葉を聞く時耳を傾けて注意深く聞かなければなりません。

ヨアス王が敵国を打って所滅することができる神様の恩寵を獲得することができなかつたことは彼が予言者を通じてくださる神様の言葉を聞く時精神を集中して聞かなかつたからです。エリシャはヨアス王に“東の窓を開けてください。”したが東はアラムの国がある方向です。王が窓を開けるとエリシャが言うのを“うってください。”したら、王が弓を射りました。予言者はその意味を明確に説明しました。

二番目は、神様の言葉を聞く時自分の主張や先入観念を捨てて聞かなければなりません。

多くの人々が聖書の言葉を読んで聞きながらも神様の言葉の本当に意味を認識することができなくて神様がくださる救いを得ることができずに神様がくださる恩寵を受けられなくなります。イエス様は福音がすべての国、すべての民族に伝えなければならぬという事実を繰り返して十分におっしゃいました。それなのに使徒たちを含めた招待教会の信者たちはユダヤ人だけ福音を伝えていました。その理由は彼らがあやまれた選民意識と先入観念のため神様の言葉を正しく認識することができなかつたからです。このような誤れた観念をとり除くために神様が使徒ペテロに幻想を見せて異邦人百卒長の招請を受け入れるように攝理なさいました。ローマ軍隊の指揮官であるゴネルリヨは神様を敬い畏れる信仰があつた人でした。ある日、ゴネルリヨが祈る中に神様の使者が現われてペテロを彼の家に招待するように指示しました。明るく日ゴネルリヨの送った人々がヨブバに到着する頃でした。祈ったペテロが奇妙な光景を見ました。天が開かれながらふるしきが下つたがその中に律法に食べることができないように規定された種類の動物たちが含まれていました。そして“ペテロよ、起きて食いなさい。”増えた音がしました。ペテロがこれを拒否するとまた音が聞こえました。“神様がきれいになつたことをあなたが俗っぽいしないで。”ちょうどその時ゴネルリヨの送った人々がペテロを尋ねて来ました。聖霊がペテロにおっしゃいました。“二人があなたを捜したら起きて下がって疑わずに一緒に行きなさい私が私どもを送った。”ペテロがゴネルリヨの家へ行ってゴネルリヨと彼の一家と友達に福音を伝えました。ペテロが説教をする中に言葉お聞きするすべての人に聖霊が臨んで彼らが方言を言って神様を高めました。

四番目、神様の言葉を聞く時その言葉に適当な信仰と所望を持たなければなりません。

聖書には聖徒になつた私たちに信仰と所望を与える言葉たちがたくさんあります。エリシャ予言者は言うのを“王が5、6回打ったら王がアラムを所滅することができたはずですが、しかしこれからは王はアラムを三度だけ打つようになるでしょう。”と言いました。聖徒たちはどんな境遇でも意気消沈するとか懦弱な心を持って行動してはいけません。そんな態度は神様の言葉に適当ではないです。神様は聖徒たちに“わたしはエジプトの国から、あなたをつれ出したあなたの神、主である。あなたの口を広くあけよ、わたしはそれを満たそう。”(詩篇 81:10) しました。“なぜなら、このしばらくの軽い患難は働いて、永遠の重い栄光を、あふれるばかりにわたしたちに得させるからである”(コリント人への第二の手紙 4:17) しました。

“私はそれだけではなく、患難をも喜んでる。なぜなら、患難は忍耐を生み出し、忍耐は錬達を生み出し、錬達は希望を生み出すことを、知っているからである。”という聖徒は矢を持って七回を打つ人です

聖徒 皆さんは神様の言葉を聞く時 耳を傾けて注意深く聞いてください。自分の主張や先入観念を捨てて聞いてください。心を低めて謙虚な姿勢に聞いてください。そして神様の言葉に適当な信仰と所望を持って活達に行動してください。神様はこんな態度に生きて行く皆さんのために権能の手を突き出して奇蹟を行います。